

# CASBEE®-建築(新築)

## 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称) イリーゼふじみ野・別邸	階数	地上3F
建設地	埼玉県富士見市ふじみ野東3丁目10	構造	RC造
用途地域	第二種中高層住居専用地域	平均居住人員	59 人
地域区分	5地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	病院	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2021年2月 予定	評価の実施日	2020年2月18日
敷地面積	2,041 m <sup>2</sup>	作成者	沢目 幸嶺
建築面積	988 m <sup>2</sup>	確認日	2020年2月18日
延床面積	2,716 m <sup>2</sup>	確認者	沢目 幸嶺



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 0.9** ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 2.8**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア= 2.7

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.0

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 2.7

**LR のスコア = 2.9**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア= 3.2

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 2.7

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 2.9

3 設計上の配慮事項		
総合	周辺環境との調和を考慮し、植栽で圧迫感を軽減させている。複層ガラスの採用や個別空調運転等、環境配慮も考慮している。	その他 特になし。
Q1 室内環境	マルチパッケージエアコンの採用により、ゾーン毎に空調負荷に応じた温度設定で運転できる。	Q3 室外環境(敷地内) 敷地内に積極的に緑地を設け、中高木と低木をバランスよく配置した。通風、採光にも配慮し、熱環境の向上に努めた。開口をバランスよく設け通風、採光の調整を行えるよう考慮している。
LR1 エネルギー	複層ガラスを採用し、開口部の断熱性能を向上させている。冷暖房負荷の軽減に繋がる。	LR3 敷地外環境 敷地内に積極的に緑地を設け、中高木と低木をバランスよく配置した。通風、採光にも配慮し、熱環境の向上に努めた。開口をバランスよく設け通風、採光の調整を行えるよう考慮している。
Q2 サービス性能	バリアフリーに配慮し、職員動線にも配慮した計画とした。	LR2 資源・マテリアル 節水に配慮し、ランニングコストの削減等につなげている。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

**CASBEE-建築(新築)2016年版**  
 (仮称) **イリーゼふじみ野・別邸**

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版

欄に数値またはコメントを記入 ■評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
<b>Q 建築物の環境品質</b>										<b>2.8</b>
<b>Q1 室内環境</b>							<b>0.40</b>		<b>-</b>	<b>2.7</b>
<b>1 音環境</b>						<b>1.6</b>	0.15	<b>1.8</b>	1.00	<b>1.7</b>
1.1 室内騒音レベル						<b>1.0</b>	0.40	<b>1.0</b>	0.40	
1.2 遮音				遮音性能T-2以上		<b>2.6</b>	0.40	<b>3.0</b>	0.40	
1 開口部遮音性能						<b>5.0</b>	0.40	<b>5.0</b>	0.30	
2 界壁遮音性能						<b>1.0</b>	0.60	<b>1.0</b>	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)						<b>3.0</b>	-	<b>3.0</b>	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)						<b>3.0</b>	-	<b>3.0</b>	0.20	
1.3 吸音						<b>1.0</b>	0.20	<b>1.0</b>	0.20	
<b>2 温熱環境</b>						<b>3.0</b>	0.35	<b>3.0</b>	1.00	<b>3.0</b>
2.1 室温制御						<b>3.0</b>	0.50	<b>3.0</b>	0.50	
1 室温						<b>3.0</b>	0.38	<b>3.0</b>	0.57	
2 外皮性能						<b>3.0</b>	0.25	<b>3.0</b>	0.43	
3 ゾーン別制御性						<b>3.0</b>	0.38		-	
2.2 湿度制御						<b>3.0</b>	0.20	<b>3.0</b>	0.20	
2.3 空調方式						<b>3.0</b>	0.30	<b>3.0</b>	0.30	
<b>3 光・視環境</b>						<b>2.4</b>	0.25	<b>3.3</b>	1.00	<b>2.8</b>
3.1 昼光利用						<b>3.0</b>	0.30	<b>3.0</b>	0.30	
1 昼光率						<b>3.0</b>	0.60	<b>3.0</b>	0.60	
2 方位別開口							-	<b>3.0</b>	-	
3 昼光利用設備						<b>3.0</b>	0.40	<b>3.0</b>	0.40	
3.2 グレア対策						<b>1.0</b>	0.30	<b>4.0</b>	0.30	
1 昼光制御				組み合わせ制御(庇とカーテン)		<b>1.0</b>	1.00	<b>4.0</b>	1.00	
3.3 照度						<b>3.0</b>	0.15	<b>3.0</b>	0.15	
3.4 照明制御						<b>3.0</b>	0.25	<b>3.0</b>	0.25	
<b>4 空気質環境</b>						<b>3.0</b>	0.25	<b>3.0</b>	1.00	<b>3.0</b>
4.1 発生源対策						<b>3.0</b>	0.50	<b>3.0</b>	0.63	
1 化学汚染物質						<b>3.0</b>	1.00	<b>3.0</b>	1.00	
4.2 換気						<b>3.0</b>	0.30	<b>3.0</b>	0.38	
1 換気量						<b>3.0</b>	0.50	<b>3.0</b>	0.33	
2 自然換気性能						<b>3.0</b>	-	<b>3.0</b>	0.33	
3 取り入れ外気への配慮						<b>3.0</b>	0.50	<b>3.0</b>	0.33	
4.3 運用管理						<b>3.0</b>	0.20		-	
1 CO <sub>2</sub> の監視						<b>3.0</b>	-		-	
2 喫煙の制御						<b>3.0</b>	1.00		-	
<b>Q2 サービス性能</b>						<b>-</b>	<b>0.30</b>	<b>-</b>	<b>-</b>	<b>3.0</b>
<b>1 機能性</b>						<b>3.0</b>	0.40	<b>4.2</b>	1.00	<b>3.5</b>
1.1 機能性・使いやすさ						<b>3.0</b>	0.40	<b>5.0</b>	0.60	
1 広さ・収納性				個室18㎡/床		<b>3.0</b>	-	<b>5.0</b>	1.00	
2 高度情報通信設備対応						<b>3.0</b>	-	<b>3.0</b>	-	
3 バリアフリー計画						<b>3.0</b>	1.00		-	
1.2 心理性・快適性						<b>3.0</b>	0.30	<b>3.0</b>	0.40	
1 広さ感・景観						<b>3.0</b>	-	<b>3.0</b>	0.50	
2 リフレッシュスペース						<b>3.0</b>	-		-	
3 内装計画						<b>3.0</b>	1.00	<b>3.0</b>	0.50	
1.3 維持管理						<b>3.0</b>	0.30		-	
1 維持管理に配慮した設計						<b>3.0</b>	0.50		-	
2 維持管理用機能の確保						<b>3.0</b>	0.50		-	
<b>2 耐用性・信頼性</b>						<b>3.0</b>	0.30		-	<b>3.0</b>
2.1 耐震・免震・制震・制振						<b>3.0</b>	0.50		-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)						<b>3.0</b>	0.80		-	
2 免震・制震・制振性能						<b>3.0</b>	0.20		-	
2.2 部品・部材の耐用年数						<b>3.0</b>	0.30		-	
1 躯体材料の耐用年数						<b>3.0</b>	0.20		-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔						<b>3.0</b>	0.20		-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔						<b>3.0</b>	0.10		-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔						<b>3.0</b>	0.10		-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔						<b>3.0</b>	0.20		-	
6 主要設備機器の更新必要間隔						<b>3.0</b>	0.20		-	
2.4 信頼性						<b>3.0</b>	0.20		-	
1 空調・換気設備						<b>3.0</b>	0.20		-	
2 給排水・衛生設備						<b>3.0</b>	0.20		-	
3 電気設備						<b>3.0</b>	0.20		-	
4 機械・配管支持方法						<b>3.0</b>	0.20		-	
5 通信・情報設備						<b>3.0</b>	0.20		-	

<b>3 対応性・更新性</b>			<b>2.6</b>	0.30	<b>2.4</b>	1.00	<b>2.5</b>
3.1 空間のゆとり			<b>1.8</b>	0.30	<b>1.8</b>	0.50	
1 階高のゆとり			1.0	0.60	1.0	0.60	
2 空間の形状・自由さ			3.0	0.40	3.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり			<b>3.0</b>	0.30	<b>3.0</b>	0.50	
3.3 設備の更新性			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1 空調配管の更新性			3.0	0.20	-	-	
2 給排水管の更新性			3.0	0.20	-	-	
3 電気配線の更新性			3.0	0.10	-	-	
4 通信配線の更新性			3.0	0.10	-	-	
5 設備機器の更新性			3.0	0.20	-	-	
6 バックアップスペースの確保			3.0	0.20	-	-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>2.7</b>
1 生物環境の保全と創出			<b>2.0</b>	0.30	-	-	<b>2.0</b>
2 まちなみ・景観への配慮			<b>3.0</b>	0.40	-	-	<b>3.0</b>
3 地域性・アメニティへの配慮			<b>3.0</b>	0.30	-	-	<b>3.0</b>
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			<b>3.0</b>	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			<b>3.0</b>	0.50	-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>			-	-	-	-	<b>2.9</b>
<b>LR1 エネルギー</b>			-	<b>0.40</b>	-	-	<b>3.2</b>
1 建物外皮の熱負荷抑制		BPI <sub>m</sub> =0.74	<b>5.0</b>	0.20	-	-	<b>5.0</b>
2 自然エネルギー利用			<b>3.0</b>	0.10	-	-	<b>3.0</b>
3 設備システムの高効率化		[BEI][BEI <sub>m</sub> ] = 0.87	<b>2.6</b>	0.50	-	-	<b>2.6</b>
4 効率的運用			<b>3.0</b>	0.20	-	-	<b>3.0</b>
集合住宅以外の評価			<b>3.0</b>	1.00	-	-	
4.1 モニタリング			3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制			3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1 モニタリング			3.0	-	-	-	
4.2 運用管理体制			3.0	-	-	-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>2.7</b>
1 水資源保護			<b>3.0</b>	0.20	-	-	<b>3.0</b>
1.1 節水			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			<b>3.0</b>	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	0.70	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			<b>2.5</b>	0.60	-	-	<b>2.5</b>
2.1 材料使用量の削減			3.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		-	1.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			2.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			3.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			<b>3.0</b>	0.20	-	-	<b>3.0</b>
3.1 有害物質を含まない材料の使用			<b>3.0</b>	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			<b>3.0</b>	0.70	-	-	
1 消火剤			-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)			3.0	0.50	-	-	
3 冷媒			3.0	0.50	-	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>2.9</b>
1 地球温暖化への配慮		ライフサイクルCO2排出率 89%	<b>3.0</b>	0.33	-	-	<b>3.0</b>
2 地域環境への配慮			<b>3.0</b>	0.33	-	-	<b>3.0</b>
2.1 大気汚染防止			<b>3.0</b>	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			<b>3.0</b>	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			<b>3.2</b>	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減			3.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制		車椅子の出入りを一方向とし、スムーズな出入りと駐車に配慮。	4.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			<b>2.7</b>	0.33	-	-	<b>2.7</b>
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1 騒音			3.0	0.33	-	-	
2 振動			3.0	0.33	-	-	
3 悪臭			3.0	0.33	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1 風害の抑制			3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制			3.0	-	-	-	
3 日照阻害の抑制			3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			<b>1.6</b>	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			1.0	0.70	-	-	
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30	-	-	

# CASBEE埼玉県 重点項目シート








■使用評価ソフトバージョン

CASBEE埼玉県2016年版

## 1 建物概要

建物名称	(仮称) イリーゼふじみ野・別邸	BEE	0.9	BEEランク	★★
------	------------------	-----	-----	--------	----

## 2 重点項目の評価

ライフサイクルCO2の削減のスコア		緑の保全・創出のスコア		
3.0	+	2.6	=	5.6 
重点項目の各スコアの合計点				
がんばろう 6.0未満 	良い 6.0以上  	非常によい 6.8以上   	すばらしい 8.0以上    	

## 3 重点項目についての環境配慮概要

<b>(1) ライフサイクルCO2の削減</b>		スコア平均	3.0
<CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア>			
LR3 敷地外環境対策	1. 地球温暖化への配慮	スコア	3.0
<配慮した内容を記述> 一般的な建物の計画とした。			
<b>(2) 緑の保全・創出</b>		スコア平均	2.6
<CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア>			
Q3 室外環境(敷地内)	1. 生物環境の保全と創出	スコア	2.0
Q3 室外環境(敷地内)	3. 2 敷地内温熱環境の向上	スコア	3.0
LR3 敷地外環境	2. 2 温熱環境悪化の改善	スコア	3.0
<配慮した内容を記述> 建物は断熱材やペアガラスにより、熱損失防止をはかっている。また、自動車及び自転車の効率の良い動線計画とし、環境に配慮している。			

: 入力欄